

## 中学校学習指導要領案についてのパブリックコメント

近年、国民の暮らしを取り巻く環境が大きく変化する中で、金融知識の不足に起因した金融トラブルが、若年層に拡がりながら増加している。このため、国民ひとり一人が金融に関する基礎知識を学び、金融に関して主体的に判断する能力を身につける必要性が高まっている。また、金融教育は、学校教育が掲げる「生きる力」を育むものでもある。以上を踏まえると、社会科、家庭科の学習指導要領に、以下のようなかたちで、お金や金融に関する記述を書き込んでいただきたい。

例えば、具体的には以下のとおり。

社会科「第2 各分野の目標および内容 [公民的分野] 2 内容(2) 私たちと経済 ア 市場の働きと経済」で「現代の生産や金融の仕組みや働きを理解させる」については、「個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行なわれるという点に着目させる」取扱いとなっているが、個人や企業の選択が短期的な視点で行なわれているだけでなく、長期的な視点でも行なわれていること(また、行なう必要があること)を理解させて頂きたい。

すなわち個人では、いわゆるライフプラン表などに基づき、これまでの生活に掛かった費用の認識や今後の学費や将来の自動車・住宅購入に際しての資金計画などを取り上げて頂きたい。また、自己資金が足りない場合のローンやその返済の仕方、複利の概念なども理解させて頂きたい。

企業においても、いわゆる運転資金と設備投資資金が必要なこと、また設備投資は技術革新や将来の需要見通しなどに基づき決定されることも理解させて頂きたい。

さらに、家計、企業、政府との間の資金の流れやそこに介在する銀行、証券会社等金融機関の仕組みや働きを理解させて頂きたい。

技術・家庭科「第2 各分野の目標および内容 [家庭分野] 2 内容」D(1) ア 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること」については、急速に普及が進んでいる携帯電話やインターネット、各種カードや電子マネーなどを取り上げて、その利用方法や利用の際の注意点について、理解させて頂きたい。

以上の点は、道徳、総合的な学習の時間、特別活動とも関連していることについても、書き込んで頂きたい。